さやまの世ばなし ㊾

このコーナーでは、昔から市内で語り継がれている言い伝えなどを、池原さん流の描画で紹介します。

ニワトリとカラスが仲の悪い話（奥富）

昔のお話です。奥富にニワトリの紺屋職人（染物屋）がおりました。たくさんの鳥にたのまれて色とりどりの衣裳を染める商売でした。ある日、おしゃれ好きの白いカラスがやって来て、「どうか私の衣裳を色よく染めておくれ」とたのみました。ニワトリは「はい、はい」とまっ黒な色に染め「世界に又とない色ですよ」といいました。カラスは水にうつった自分の姿を見て「カアッ」と驚き染賃を払わず飛び去って行きました。それから、ニワトリはカラスを見ると「コケコッコー！」と、ときの声をあげ、カラスは、うらみを忘れないぞと「カアー、カアー」さけぶのだそうです。

※この話は「動物昔話」で語者は下奥富の佐藤つる子（明治20年生）です。

題字・絵・文／池原昭治氏

池原さんのプロフィールやほかの作品はこちら▼

分かるかな？

今月の写真クイズ

写真は、今月号に掲載した写真の拡大写真です。何ページの何の写真でしょう？

正解者の中から、抽選で5名に記念品を差し上げます。郵便はがきに、住所、氏名、電話番号、クイズの答え、感想を記入して広報課宛（〒350-1380 入間川1丁目23番5号）にお送りいただくか、右の二次元コードから応募してください。

締め切り6月30日㈫

5月号の答え

6ページ「4つの重点テーマ」の「テーマ2 まちと産業の進化を目指そう」の写真でした。

編集後記

春バラの撮影や新茶まつりの取材などを通して、狭山市は身近な場所で自然や文化に触れられる機会がたくさんあることを改めて実感しています。文化に触れるといえば、6月の市内公立小・中学校の給食は、サッカーワールドカップの開催に合わせて、開催国や日本の対戦予定国などの料理10カ国分をメニューに取り入れるとのこと。楽しみながら世界の食文化に触れることができる素敵な取り組みだと感じました。私も久しぶりに給食を食べたいです。

また、長年使ってきたカメラを更新し、最近広報課に新しいカメラが配備されました。このカメラを手に、まずはサッカーワールドカップ給食を楽しむこどもたちを取材してきたいと思います。引き続き、イベントの様子や市民の皆さんの笑顔など、市の魅力が伝わる瞬間を写真とともにお届けできるよう、より一層励んでいきたいです。

人口と世帯（市民課）

※人口は5月1日現在（　）内は前月比。転出入等は1カ月間の累計

男	73,246人（ +53人）	転入等	751人
女	74,083人（ +55人）	転出等	558人
合計	147,329人（+108人）	出生	56人
世帯	73,768世帯（+189世帯）	死亡	141人

公式X　公式Facebook

マチイロ「広報さやま」がスマホで見られます！

狭山市LINE公式アカウント ID:@citysayama

この広報紙は再生紙を使用しています。
VEGETABLE OIL INK